

2018山梨県レッドデータブックの概要

1 調査期間・方法

(1) 期間 3年(平成27年度～平成29年度)

(2) 方法 分類群毎に民間団体に委託し調査、専門家による委員会にてランク等の検討

2 対象分類群

植物、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類の7分類群

* 昆虫類については新たにガ類等を調査対象に追加

3 カテゴリー(区分及び基本概念)

絶滅	県内ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅	飼育・栽培下でのみ存続している種
絶滅危惧	
絶滅危惧 類	県内において絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧 A類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種
絶滅危惧 B類	A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種
絶滅危惧 類	県内において絶滅の危険性が増大している種
準絶滅危惧	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息・生育条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの
情報不足	評価するだけの情報が不足している種
絶滅のおそれのある地域個体群	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
要注目種 及び要注目地域個体群	近い将来絶滅危惧に移行しないか、その動向を注目する必要のある種または地域個体群

* 環境省のカテゴリーに準じて設定

4 カテゴリー別の選定種類数

カテゴリー	植物	哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	魚類	昆虫類	合計
絶滅		2				1	4	7
野生絶滅	4							4
絶滅危惧 類 ¹⁾							2	2
絶滅危惧 A類	135		3		1		17	156
絶滅危惧 B類	166	3	9				20	198
絶滅危惧 類	88	5	10	2	1	2	36	144
準絶滅危惧	34	6	19		2		34	95
情報不足	42	6	18	2	1	5	17	91
合計	469	22	59	4	5	8	130	697
絶滅のおそれのある地域個体群						4	1	5
要注目種		11			1	1	4	17
要注目地域個体群							4	4

1) チョウ目ガ類のみ該当する。

5 結果概要

調査が進み、新たな確認種や調査分類群（ガ類等）が追加されたこと、生息・生育状況が明らかになったことなどから、2005年レッドデータブックと比べ次のとおりとなった。

（1）レッドデータブック選定種数

95種増の723種となった。

（2）絶滅種について

県内でこの数十年確認されていない4種が新たに絶滅と判定され、1種が再発見されたため、3種増の11種となった。

絶滅植物：サルメンエビネ

絶滅動物：ヒョウモンモドキ、オオウラギンヒョウモン、フサヒゲルリカミキリ

再発見種（植物）：マツバラ

（3）絶滅危惧種（A類、B類、類）について

新たな調査対象分類群（ガ類等の22種）が追加されたこと、新たに絶滅危惧種と判定された種がある一方、外れた種もあり、86種増加の500種（植物389種（+22種）、動物111種（+64種）となった。

2005年以降に県内で新たに22種が確認された。

（絶滅危惧 A類 9種）

植物（5種）：コタニワタリ、ホソバシヨリマ、イナツルデンダ、クモラン、マツバニンジン

動物（4種）：アカイシサンショウウオ、カワラハンミョウ、クロゲンゴロウ、アカハネバツタ

（絶滅危惧 B類 13種）

植物（9種）：オクタマシダ、ヒメサジラン、マメツタラン、ベニシュスラン、オオバナオオヤマサギソウ、アカンスゲ、ミチノクフクジュソウ、ミヤマモミジイチゴ、ゴマノハグサ

動物（4種）：チチブコウモリ、オオルリハムシ、コガタガムシ、マダラヤンマ

在来種数に対する絶滅危惧種の割合は、在来種数の不明な昆虫類を除き0.2%増の16.9%となった。